

令和 5 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や言語の特徴、きまりを理解し、活用する力 【知識及び技能】 テーマに沿って書きたいことを決め、自分の考えが伝わるように効果的に書く力 【思考力、判断力、表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」が課題となっている。「言語の特徴や言葉のきまりに関すること」についても十分でないことが課題につながっている面もある。また、書くことを決めること自体に難しさが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語に触れる学習を行って継続的に練習や活用を繰り返し、習慣化していく。 書きたいことを決めるときは、イメージマップや表などを活用して、書きたいことのイメージを広げたり整理したりする。必要に応じて材料集めを先に行いながら、書きたいことを決めることも有効である。 文章や表現の効果的な書き方のポイントを具体例にして示す。情報と関連付けて整理しながら書くようにするなど、見通しをもって書けるように指導の工夫をする。 主語・述語、話の順序、指示語、意見と理由・根拠の区別、話の中心、段落のつながり、文章の構造など基本的な事柄を確実に押さえ、論理的に考える指導をする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料の様々な特性を理解して資料の内容を読み取り、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。 【知識・技能】 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、適切に表現する力を養う。 【思考力・判断力・表現力等】 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う。 【学びに向かう力・人間性等】 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容について、知識の定着が十分でない部分が見られる。その理由として、学年間や単元間の学習内容を系統立てて理解できていないことが考えられる。 技能面では、写真や図、表などの資料の読み取りにおいて、複数ある資料の中から、知りたいことや調べる目的に応じて適切な資料を選ぶことが難しいという課題がある。資料の種類に応じて、どのような特徴を読み取ることができるのかを理解し、資料の特性に留意した読み取り方を習慣付ける必要がある。 学習したことを自己の生活やこれからの生き方に生かして 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる内容に応じて適切な資料を提示するとともに、「地図では、位置関係や分布の様子が分かりやすい」といった、資料ごとの特徴を授業の中で押さえる。 算数科の領域D「データの活用」と関連付けて、社会科の学習内容に関連した資料を算数科で扱ったり、社会科の授業内で、算数科で学習した資料の特色を確認したりして、資料ごとの特徴を理解できるようにする。 ワークシート等で、複数ある資料から適切なものを選んだり、一つの事象について二つの資料を関連付けて読み取ったりする課題に取り組む。 学年間や単元間の内容の関連を意識付けるために、単元や授業の冒頭に、前学年や既習単元の関連内容を確認する時間を適宜設ける。 3年生では地図や地図記号といった資料に十分親しめていないため、どの学年でも資料

		いく態度を身に付ける必要がある。	に触れたり、活用したりする機会を増やす。 ・学習内容が実際に生かされている事例を資料で紹介し、学習が身近な生活につながっていることが実感できるようにする。
--	--	------------------	--

算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質の理解と作図能力向上させる。 【知識及び技能】 ・既習事項を活用して、自力解決できる能力と論理的思考力を高める。 【思考力、判断力、表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や学習評価等の結果から分析すると、どの学年においても計算や作図などの基礎はできているが、応用問題に課題がある。 ・基礎基本を論理的に説明したり、思考力を要する問題により多く取り組んだりする必要がある。 ・既習事項を基にして、見通しをもち、筋道を立てて考えて適用問題を解く力が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物の操作や動作化を多く取り入れて、応用問題の理解を深めさせる。 ・図形を構成する要素に着目し構成の仕方に身通しをもたせ、図形の性質を見出させる。その性質を筋道立てて説明する指導を充実させる。高学年では、作図の問題を反復練習して、技能を向上させる。作図後の見直しを徹底させる。 ・ペアやグループ学習を取り入れ、近くの友達と意見交換を行う場を設け、意見を交わすことにより自分の考えを振り返り、情報の共有を図る。 ・児童が論理的思考力を高めるために、集団検討を通して、「図や表やグラフなど」と「言葉」を結び付けて表現する指導を充実させる。特に言葉、図、式、グラフ等で表現し、説明する活動を取り入れて指導する。論理的思考力を高める授業を展開することで、児童が理解を深め、確かな学力を育成できるようにする。 ・日常生活に算数を活用できることを実感させ、思考力・判断力を育む活動を多く取り入れる。 ・自ら課題を発見し、課題や目的、内容を明確にさせ、多様な考えからよりよい考えや解決方法を求めさせていく。

理科	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象に対する基本的な概念や知識、規則性の理解する力。 【知識及び技能】 ・観察・実験の結果を解釈し、結論を導く力 【思考力・判断力・表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然事象から、問題を見付け、予想を立て、実験方法を考える過程が身に付いていない。 ・観察や実験等の学習には意欲的に取り組むが、その方法や結果を基に考察していくことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時に、学習内容に関する体験をさせたり、教具を工夫したりして、問題作りをする機会を増やす。 ・観察・実験の結果から、自分の考えをまとめさせる。結果と考察の違いを明確にし、観察や実験の結果から導いた自分の考えをノートに書かせる。それを基に話し合いをさせる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して得た知識を、日常生活や他教科・他の単元で生かそうとできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等を用いて意見を共有しやすくするなどして、友達の考えと比較したり、多様な考えを知ったりすることができるようにする。 ・実験結果から導かれた考察を、言葉、グラフや表等を活用してまとめ、発表し合うことで、情報活用能力を高めるとともに、表現する力を高める。 ・自然事象と日常生活を関連して振り返っている児童を取り上げ、全体で共有し、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる。
--	--	---	--

生活	育成を目指す資質・能力 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動や体験を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 【知識及び技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・体験や活動によって、気付いたことや楽しかったことについて多様な方法で表現し、考えを深める資質能力を高める。【思考力・判断力・表現力等】 	学習評価等に基づく課題 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に幼少期を過ごしてきた児童は、様々な実体験・生活経験が少なく、活動に見通しをもつことが難しいという課題がある。(上級生も交流活動の経験がないこともある。) 	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に行うことができなかった、校外学習やゲストティーチャーを招いての授業、他学年との交流などの活動を充実させ、児童が多様な体験や活動ができるよう設定する。そのために、地域との交流を密に行う。 ・ICTを利用した活動記録、観察記録と振り返り活動をする方法を指導する。表現活動、調べ学習などでも活用する。 ・表現活動においては、相手に伝えるだけでなく、自分自身の学習の成果や振り返りをし、次回への学習の意欲につながる学習形態の工夫を行う。

音楽	育成を目指す資質・能力 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいことを音楽で表現できる力。 【知識及び技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動において、自分の思いや意図をもって演奏の良さを見出したり音楽を味わって聴いたりする力。 【思考力・判断力・表現力等】	学習評価等に基づく課題 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや意図をもち、それを音楽で表現することや、演奏の良さを見いだしたり音楽を味わって聴いたりすることに課題がある。 	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しをもったり活動を振り返ったりしながら学んだことや自分の変容を自覚したりできるよう発問を工夫したり、対話によって自分の考えをまとめたりできる学習形態の工夫をする。また、粘り強く、個に応じたきかけと支援をする。 ・児童が自分なりのイメージや感情、生活や文化などと関連付けさせ、振り返ったり比較したりしながら、音楽的な見方や考え方を働かせるようにする。 ・共通事項を手がかりに知覚から感受へのプロセスを大切にしながら音楽を聴く耳を育てる。

図	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
---	-------------	-------------	----------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・材料などの形や色やその組み合わせの感じを理解し、用具や表現方法を選んで適切に扱って表現する。 【知識及び技能】 ・材料や行為などをもとに自分なりのイメージをもち、どのように表すか考える。 【思考力・判断力・表現力等】 ・作品のよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・つくり出す喜びを味わい、主体的に活動に取り組む。 【学びに向かう力・人間性等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の材料を知る体験を通して、形や色などの造形感覚を育てる。 ・用具を正しく扱えるようになるために、ICTや動画を活用し視覚的な理解を促すとともに、確実に習得できるように繰り返し使用する機会を設ける。 ・感覚や行為を基にすることに加え、映像や資料、美術作品や友達の作品などを見て自分なりの感じ方を広げイメージをもてるようにする。 ・振り返りで「工夫したこと」や「作品についての説明」「友達の作品のよさ」等について考えることで価値付けができるようにする。 ・手や体全体を十分に働かせて活動し、友達と互いの考えのよさを共有する場を設けて、つくる喜びを感じさせるようにする。
--	---	---	--

家庭	<p>育成を目指す資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣食住について、日常生活に必要な基礎的な知識と技術を獲得できるようにする。 【知識及び技能】 ・実生活において課題を発見し、解決方法を考えることができるようにする。【思考力・判断力・表現力等】 ・課題の解決に主体的に取り組む姿勢を身に付けることができるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】 	<p>学習評価等に基づく課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活において、自立的な経験が少ない。そのため、学校での実践が初めてになることが多い。 ・調理だけではなく、裁縫の実技において、必要に迫られる機会に乏しい。 ・生活様式が便利になり、自らが行わなくても生活できていることで、自分の生活に学習したことを生かすことが難しい。 	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に振り返りテストを行う。単元よりさらに細かく、学んだことを振り返る場を設けることで、より着実に知識の定着を図っていく。 ・宿題等で、実際に家で実習する機会を増やし、技能の定着を図っていく。 ・家庭科で学んだ内容を基に、他教科との連携を図る。家庭科は実生活で生かしていくことが重要であるため、宿題を含め家庭学習も大切にしていく。 ・難易度の高い課題に関して、顕著に学習意欲が低くなる傾向がある。学習意欲をもたせるために、周りの人に自分の意見を認めてもらえる場を置く設け、自己肯定感を大切に授業を行う。
	体育	<p>育成を目指す資質・能力</p>	<p>新体力テスト、学習評価等に基づく課題</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動遊び・運動の楽しさに触れ、その行い方を知り、基本的な動きや技能を身に付けられるようにする。 【知識及び技能】 ・自分の課題を見付け、その解決のために工夫して取り組むことができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】 ・日常的に運動に親しみ、体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じながら、仲間と仲良く意欲的に運動することができるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト実施による結果から、上体おこし（筋持久力）、20mシャトルラン（全身持久力）の結果の低下が見られる。ともに持久力に関する種目であり、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動遊び・運動の中で、様々な体の使い方を体験させ、多様な動きを育てる活動を多く取り入れるよう、授業方法を工夫する。 ・学習カードや発問などを工夫したり、グループを編成して教え合いの学習を取り入れたりする。ICTを活用し、動画等で自分の動きを分析し自分の課題がどこにあるのか気付かせ、スモールステップの手順を示しながら指導を行う。 ・コロナ禍による運動量の低下が顕著なため、休み時間等でもできるだけ外遊びをするように言葉を掛け、運動量とその時間を確保する。 ・体づくりの運動遊びやゲーム性のある運動を通して、コミュニケーションを必要とする運動に取り組ませる。
---	--	---

国際	<p>育成を目指す資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付ける。 【知識及び技能】 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて自分の考えや気持ちなどを伝え合う。 【思考力・判断力・表現力】 ・外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 【学びに向かう力・人間性】 	<p>学習評価等に基づく課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、学習した語彙や表現を選択したり自分の考えを付け加えたりしてコミュニケーションを取ることに課題がある。 ・文字の高さや形の違いを意識しながら、大文字・小文字を正しく書き分けることには課題がある。 	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のめあてを確認し、明確に児童に提示する。また、振り返りカードでは、めあてと照らし合わせて自分ができたことを書かせるようにする。 ・挨拶や、レビュータイム、スモールトークの時間などを利用し、繰り返し語句を練習できるようにする。 ・必然性のあるコミュニケーションの場を設定する。学習した単語や、文の練習を丁寧に行い、全員がそれを使用しながら、児童間で関わりをもって進めていくアクティビティーを取り入れていく。 ・学習した単語や文を話す練習や、聞く練習を繰り返し行い、体感として慣らしていく。その上で、ゲームやインタビューなど児童が自分活動しながら活用していく場面を取り入れることで、積極性を養っていく。その際児童の実態に合わせ、ペア、グループ、全体と活動体制を選択していく。
----	--	--	---

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える力。 自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的諸価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材と自分の生活を結び付けて考えることに課題がある。 教材では問題解決できるが、日常生活になると自分本位の考え方をしてしまうことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が道徳的な問題に対して自分事として考えることができるように、導入では問題意識をもって主題に臨むことができるようにする。 展開では、教材や人物への「自我関与」ができるように、体験的な活動を取り入れるなど仕掛けや手立てを工夫していく。 学年の実態に合わせた教材を選択し、ICTも活用して、自分事として考えを深められる授業改善をする。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 多様な他者と協働する。 様々な集団活動の意識や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 【知識及び技能】 集団や自己の生活、人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意志決定をしたりすることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。 【学びに向かう力・人 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動では、指導の一貫性がとれず、適切な行動の仕方が身に付いていない。 学校行事では、計画や振り返りを十分に行うことができず、1年間のつながりを感じることができない児童が多くいる。 話し合い活動の指導が充実していないため、話し合いの仕方や合意形成についての知識が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会活動やクラブ活動、兄弟学年の取り組みなどを通して、他学年との関わりを増やしていく。 学級会を充実させ、話し合いの仕方を身に付け、課題解決を図る。 話し合い活動、実践、振り返りのサイクルを徹底することで、新たな課題を発見しやすくする。 キャリアパスポートを有効に活用し、目標に向けて自分で意思決定をさせる。 当番活動や係活動を行うことで、集団の中の一員ということを認識させる。 学級会や学校行事等で実践する機会を設け、多くの課題に直面させ、実際に話し合いや協働活動をすることで、集団の一員として活動することの楽しさや充実感を味わわせる。

	間性等】		
--	------	--	--

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の枠組みを超えた探求の過程を通して、実社会・実生活における様々な課題解決に活用可能な生きて働く知識・技能。【知識・技能】 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる力。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 探求的な学習に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度。 <p>【学びに向かう力・人間性】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実生活の中から問いを見出し、自分で課題を見付けることができない。 導入でのやる気が、継続できず、粘り強く探求的な学習を行えない児童がいる。 調査活動は、インターネット検索に頼ってしまうことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や教科につながる単元を設定することで、身近なことに問題意識をもてるようにする。 問題解決、情報収集活動をする際、どのような方法が有効かを話し合い、取捨選択をする。 iPadを活用することで、情報収集・情報処理能力を伸ばす。 プレゼンテーションソフトを活用して発表する経験を積ませることで、表現力の育成につなげる。 「自分には何ができるか」「何がしたいか」を児童が考え、話し合い、実践する形態の授業展開を多く取り入れていくことで、思考力やコミュニケーション能力の育成につなげていく